

## c) 全国の高齢者データを用いた研究

令和2年度厚生労働科学研究費補助金  
(循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業)  
分担研究報告書

### 通いの場として利用する施設の利用者特性と社会参加との関連の検証

研究分担者 細川 陸也 (京都大学大学院医学研究科 講師)

研究代表者 近藤 克則 (国立長寿医療研究センター老年学評価研究部・部長  
千葉大学予防医学センター 教授)

#### 研究要旨

【目的】地域には、通いの場として利用される多様な施設が存在する。本研究は、通いの場として利用される施設の利用者の特性、施設利用と社会参加との関連を明らかにすることを目的とした。【対象と方法】愛知県東海市の65歳以上の高齢者2,473名(要介護認定者を除く)を対象とし、2018年に郵送法にて自記式質問紙調査を実施した。主な調査項目は、対象者の属性、施設の利用状況、社会参加などであった。本研究では、対象者のうち、有効回答の得られた1,669名を分析対象とした(有効回答率67.5%)。【結果】通いの場として月1回以上定期的に利用している施設は、公園17.7%、健康交流の家(老人憩いの家)17.1%、公民館・市民館16.1%などであった。また、いずれかの1施設以上を利用している者は全体の52.8%であり、一方、定期的な通いの場がない者は47.2%であった。利用者の特性は、全体としては収入・教育歴の低い群で利用者が少ない傾向がみられたが、施設別にみると収入・教育歴との関連のみられない施設もあった(健康交流の家、民間カラオケ施設など)。また、定期的に施設を利用している群では、外出の機会や交流の機会が維持・増加する傾向が示された。【考察】社会経済状況の影響の少ない通いの場の確保は重要であり、施設の利用者特性を踏まえた地域づくりを推進していく必要性が示唆された。

#### A. 研究目的

趣味や健康づくり・交流のために通う「通いの場」への参加は、要介護のリスクを低減させる効果が報告されている。国の健康寿命の延伸に向けた取組の中でも、「高齢者の通いの場を中心とした介護予防と生活習慣病等の疾病予防・重症化予防の一体的実施」や「通いの場の拡大、高齢者に対して生きがい・役割を付与するための運営支援、かかりつけの医療機関等との連携」の重要性が掲げられている。しかし、社会参加は、個人の社会経済状況に影響されることが指摘されており、どのような施設における通いの場が様々な背景を持つ高齢者の参加を促すことができるかは十分に明らかとなっていない。そこで、本研究は、通いの場として利用される施設の利用者の特性を明らかにするとともに施設利用と社会参加の関連を明らかにすることを目的とした。

#### B. 研究方法

愛知県東海市の上野台・大池・千鳥・養父地区在住の65歳以上の全高齢者2,473名(要介護認定者を除く)を対象とした。2018年12月に、郵送法にて自記式質問紙調査を実施した。本研究では、対象者のうち、有効回答の得られた1,669名を分析対象とした(有効回答率67.5%)。

調査項目は、対象の属性は、性別、年齢、家族構成、収入、教育歴について尋ねた。通いの場として利用している施設は、趣味・健康づくり・交流のために定期的に利用している施設として、公園、公民館・市民館、集会所、健康交流の家（老人憩いの家）、体育館、プール、しあわせ村（健康ふれあい交流館・健康福祉センター）、民間のスポーツ施設、民間のカラオケ施設などの利用頻度を尋ねた。また、社会参加については、1年前と比べた歩行の機会、外出の機会、会話の機会、スポーツの会に参加する機会、趣味の会に参加する機会の変化を尋ねた。

分析方法は、施設の利用状況と利用者の特性との関連、施設の利用状況と社会参加との関連を検証するため、 $\chi^2$ 検定を実施した。

（倫理面への配慮）

本研究は、厚生労働省「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」等を遵守し、個人情報（氏名や住所など個人が特定できるもの）を削除した匿名化されたデータを用いた。データ分析および研究成果の発表の際には個人を特定することは不可能である。

本報告では、神戸市の倫理審査委員会にて承認された「JAGES プロジェクト-若年層および高齢者の健康とくらしに関する疫学研究-」データの二次利用、および国立研究開発法人国立長寿医療研究センターの倫理・利益相反委員会（992-4、1244）、千葉大学の倫理審査委員会（2493）で承認された JAGES の一貫として研究を行った。

## C. 研究結果

### 1. 通いの場として定期的（月1回以上）に利用している施設（表1）

通いの場として月1回以上定期的に利用している施設は、公園 17.7%、健康交流の家（老人憩いの家）17.1%、公民館・市民館 16.1%などであった。また、いずれかの施設を1施設以上利用している者 52.8%であり、一方、定期的な通いの場がない者は 47.2%であった。

表 1. 通いの場として定期的（月1回以上）に利用している施設

	N	%
全施設（下記の1施設以上を利用）	881	52.8
公園	295	17.7
公民館・市民館	268	16.1
集会所	192	11.5
体育館	40	2.4
プール	29	1.7
健康交流の家（老人憩いの家）	285	17.1
しあわせ村（健康ふれあい交流館・健康福祉センター）	105	6.3
その他の公共施設	104	6.2
民間スポーツ施設	86	5.2
民間カラオケ施設	57	3.4
その他の民間施設	71	4.3

## 2. 通いの場として利用している施設の利用者の特性（表 2-1・2・3・4）

通いの場として利用している施設の利用者の特性は、施設によってばらつきがみられた。全施設（いずれかの施設を1施設以上利用）は収入（低い群で利用が少ない傾向）・教育歴（低い群で利用が少ない傾向）が有意な関連を示した。また、個々の施設をみていくと、公園は性別（女性で利用が少ない傾向）・年齢（後期高齢者で利用が少ない傾向）・教育歴（低い群で利用が少ない傾向）、公民館・市民館は性別（男性で利用が少ない傾向）・年齢（前期高齢者で利用が少ない傾向）・家族の同居（同居ありで利用が少ない傾向）・教育歴（低い群で利用が少ない傾向）、集会所は年齢（前期高齢者で利用が少ない傾向）・収入（高い群で利用が少ない傾向）、体育館は家族の同居（同居なしで利用が少ない傾向）、健康交流の家は性別（男性で利用が少ない傾向）・年齢（前期高齢者で利用が少ない傾向）、その他の公共施設は教育歴（低い群で利用が少ない傾向）、民間スポーツ施設は年齢（後期高齢者で利用が少ない傾向）・教育歴（低い群で利用が少ない傾向）、その他の民間施設は家族の同居（同居なしで利用が少ない傾向）・収入（低い群で利用が少ない傾向）が有意な関連を示した。一方、プール・しあわせ村・民間カラオケ施設は有意な関連を示さなかった。

表 2-1. 通いの場として利用している施設の利用者の特性

	全施設				公園			公民館・市民館			
	非定期		定期	p	非定期		p	非定期		p	
	N	%	%		%	%		%	%		
<b>性別</b>											
女性	882	45.20%	54.80%	0.116	88.70%	11.30%	<0.001	79.70%	20.30%	<0.001	
男性	778	49.10%	50.90%		74.90%	25.10%		88.60%	11.40%		
<b>年齢</b>											
65-74 歳	889	46.90%	53.10%	0.917	79.80%	20.20%	0.007	86.20%	13.80%	0.002	
75 歳以上	746	46.60%	53.40%		84.90%	15.10%		80.60%	19.40%		
<b>家族の同居</b>											
あり	1333	47.00%	53.00%	0.346	81.40%	18.60%	0.122	84.80%	15.20%	0.022	
なし（独居）	236	43.60%	56.40%		85.60%	14.40%		78.80%	21.20%		
<b>収入</b>											
200 万円未満	308	51.00%	49.00%	0.019	81.50%	18.50%	0.885	84.40%	15.60%	0.680	
200 万-300 万円	421	41.10%	58.90%		80.00%	20.00%		82.90%	17.10%		
300 万円以上	729	42.80%	57.20%		80.80%	19.20%		82.20%	17.80%		
<b>教育歴</b>											
9 年以下	524	54.00%	46.00%	0.001	85.70%	14.30%	0.036	87.40%	12.60%	0.023	
10-12 年	783	43.90%	56.10%		80.80%	19.20%		82.00%	18.00%		
13 年以上	337	43.30%	56.70%		79.80%	20.20%		82.20%	17.80%		

表 2-2. 通いの場として利用している施設の利用者の特性

	集会所				体育館			プール		
	非定期		定期		非定期	定期	p	非定期		定期
	N	%	%	p				%	%	
<b>性別</b>										
女性	882	87.80%	12.20%	0.315	97.70%	2.30%	0.815	98.00%	2.00%	0.331
男性	778	89.30%	10.70%		97.60%	2.40%		98.60%	1.40%	
<b>年齢</b>										
65-74 歳	889	91.60%	8.40%	<0.001	97.40%	2.60%	0.559	98.50%	1.50%	0.298
75 歳以上	746	84.70%	15.30%		97.90%	2.10%		97.90%	2.10%	
<b>家族の同居</b>										
あり	1333	88.20%	11.80%	0.970	97.40%	2.60%	0.041	98.30%	1.70%	0.610
なし (独居)	236	88.10%	11.90%		99.60%	0.40%		97.90%	2.10%	
<b>収入</b>										
200 万円未満	308	86.40%	13.60%	0.002	96.80%	3.20%	0.214	98.40%	1.60%	0.612
200 万-300 万円	421	84.10%	15.90%		98.60%	1.40%		98.60%	1.40%	
300 万円以上	729	90.90%	9.10%		97.10%	2.90%		97.80%	2.20%	
<b>教育歴</b>										
9 年以下	524	89.70%	10.30%	0.464	97.30%	2.70%	0.840	99.00%	1.00%	0.194
10-12 年	783	87.50%	12.50%		97.70%	2.30%		97.70%	2.30%	
13 年以上	337	88.70%	11.30%		97.90%	2.10%		98.20%	1.80%	

表 2-3. 通いの場として利用している施設の利用者の特性

	健康交流の家				しあわせ村			その他の公共施設		
	非定期		定期		非定期	定期	p	非定期		定期
	N	%	%	p				%	%	
<b>性別</b>										
女性	882	78.80%	21.20%	<0.001	93.40%	6.60%	0.655	94.00%	6.00%	0.647
男性	778	87.40%	12.60%		94.00%	6.00%		93.40%	6.60%	
<b>年齢</b>										
65-74 歳	889	85.90%	14.10%	<0.001	93.50%	6.50%	0.854	93.10%	6.90%	0.255
75 歳以上	746	79.20%	20.80%		93.70%	6.30%		94.50%	5.50%	
<b>家族の同居</b>										
あり	1333	83.60%	16.40%	0.097	93.20%	6.80%	0.338	93.20%	6.80%	0.145
なし (独居)	236	79.20%	20.80%		94.90%	5.10%		95.80%	4.20%	
<b>収入</b>										
200 万円未満	308	82.50%	17.50%	0.719	94.20%	5.80%	0.487	93.50%	6.50%	0.975
200 万-300 万円	421	81.20%	18.80%		93.30%	6.70%		93.30%	6.70%	

300万円以上	729	83.10%	16.90%		92.20%	7.80%		93.10%	6.90%	
<b>教育歴</b>										
9年以下	524	84.20%	15.80%	0.171	95.40%	4.60%	0.077	98.70%	1.30%	<0.001
10-12年	783	81.00%	19.00%		93.20%	6.80%		91.30%	8.70%	
13年以上	337	84.90%	15.10%		91.70%	8.30%		91.40%	8.60%	

表 2-4. 通いの場として利用している施設の利用者の特性

	民間スポーツ施設				民間カラオケ施設			その他の民間施設			
	非定期		定期	p	非定期		定期	非定期		定期	p
	N	%	%		%	%	%	%	%		
<b>性別</b>											
女性	882	94.80%	5.20%	0.946	97.10%	2.90%	0.247	96.00%	4.00%	0.508	
男性	778	94.90%	5.10%		96.00%	4.00%		95.40%	4.60%		
<b>年齢</b>											
65-74歳	889	93.70%	6.30%	0.029	97.20%	2.80%	0.137	95.50%	4.50%	0.634	
75歳以上	746	96.10%	3.90%		95.80%	4.20%		96.00%	4.00%		
<b>家族の同居</b>											
あり	1333	94.70%	5.30%	0.909	96.80%	3.20%	0.069	95.30%	4.70%	0.037	
なし(独居)	236	94.50%	5.50%		94.50%	5.50%		98.30%	1.70%		
<b>収入</b>											
200万円未満	308	95.50%	4.50%	0.281	95.50%	4.50%	0.477	98.40%	1.60%	0.007	
200万-300万円	421	95.00%	5.00%		97.10%	2.90%		96.20%	3.80%		
300万円以上	729	93.30%	6.70%		96.30%	3.70%		94.10%	5.90%		
<b>教育歴</b>											
9年以下	524	97.50%	2.50%	0.003	96.40%	3.60%	0.900	96.90%	3.10%	0.202	
10-12年	783	93.70%	6.30%		96.80%	3.20%		95.30%	4.70%		
13年以上	337	93.20%	6.80%		96.40%	3.60%		94.70%	5.30%		

### 3. 通いの場への施設利用と社会参加との関連 (図1)

通いの場への施設利用と社会参加との関連をみると、定期的な利用群は非利用群に比べ、歩く機会、外出する機会、会話する機会、スポーツの会へ参加する機会、趣味の会へ参加が維持・増加している割合が高い傾向がみられた。

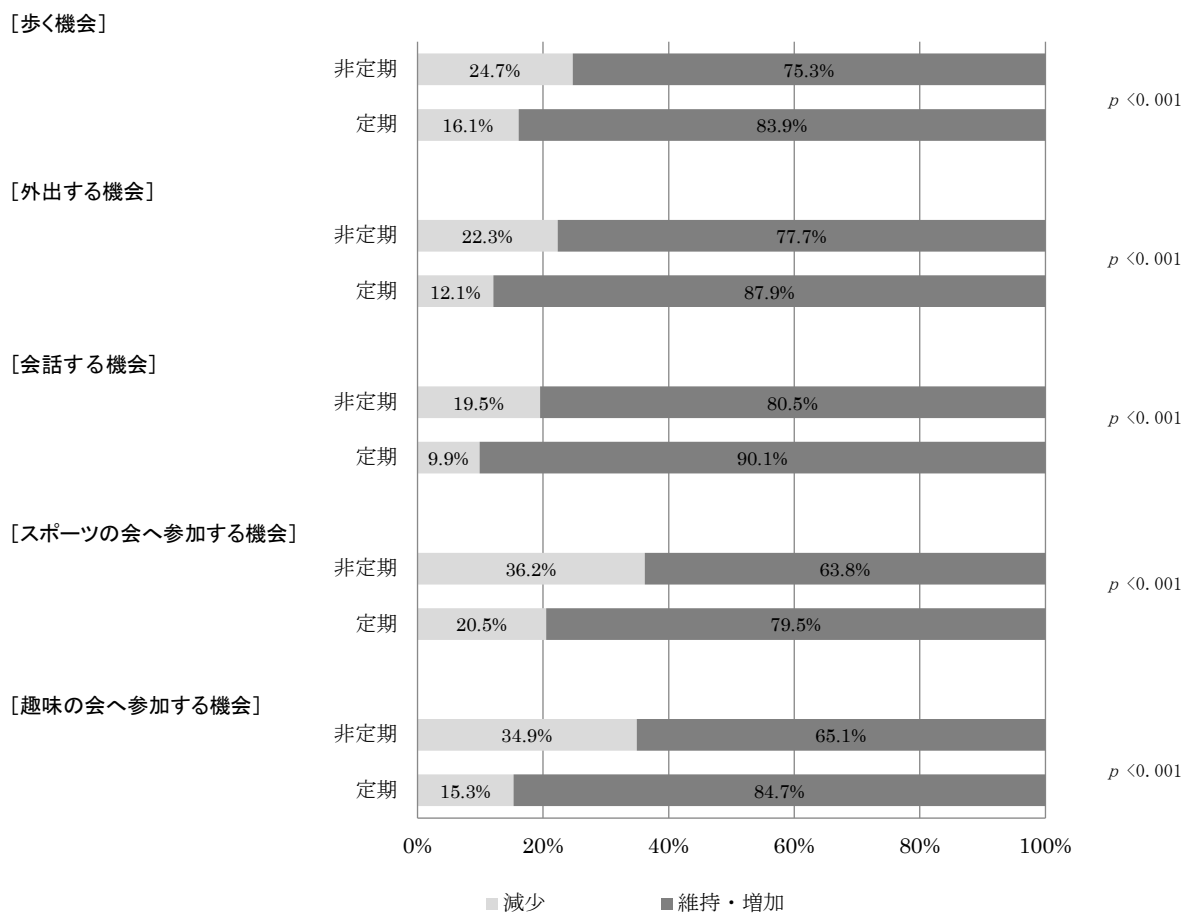


図1. 通いの場への施設利用と社会参加との関連

#### D. 考察

本研究より、通いの場として月1回以上定期的に施設を利用している者（いずれか1施設以上利用している者）は全体の52.8%であり、一方、定期的な通いの場のない者は47.2%であった。その利用者の特性は、全体としては収入・教育歴の低い群で利用者が少ない傾向がみられたが、施設別にみると収入・教育歴との関連のみられない施設もあった。また、定期的に施設を利用している群では、歩く機会、外出する機会、会話する機会、スポーツの会へ参加する機会、趣味の会へ参加する機会が維持・増加している傾向がみられた。地域づくりによる介護予防を推進するために、住民が主体となる通いの場の存在が高齢者の健康度を高めていくことが期待されているが、社会参加は個人の社会経済状況に影響されることが報告されている。本結果より、利用者の特性は施設ごとに異なる部分もあり、特に、健康交流の家、民間カラオケ施設などは収入・教育歴との関連はみられず、社会経済的な影響の少ない施設である可能性がある。

#### E. 結論

健康格差を拡大しないためには社会経済状況の影響の少ない通いの場の確保は重要であり、施設の利用者の特性を踏まえた地域づくりを推進していく必要性が示唆された。

F. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

(発表誌名巻号・頁・発行年等も記入)

G. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし